

令和3年9月30日（木）中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
議題（1）についての意見

NHK解説委員室 二宮 徹

○ 山口県教育委員会への質問

学校・地域連携カリキュラムや熟議の取り組みは先進的で、素晴らしい取り組みだと思います。効果を上げるには、取り組みの軸となるコーディネーターや当日の進行役（ファシリテーター）が重要と思われます。

これらの役割はどんな立場の教職員が務めていらっしゃるのでしょうか。

また、その能力や意欲を維持・向上するために、県教委などがどのような指導や研修を行っているのでしょうか。

さらに、この取り組みを全県に広げるにあたって、コーディネートの面でどのような課題があるとお考えでしょうか。

○ 山口県教育委員会からの回答

①これらの役割はどんな立場の教職員が務めていらっしゃるのでしょうか。

校長のリーダーシップの下、教頭をはじめ、様々な立場の方が行っている。例えば、校務分掌の中に位置付けられた地域連携担当教員や学年主任が行ったり、高等学校では生徒が行ったりすることもある。

②また、その能力や意欲を維持・向上するために、県教委などがどのような指導や研修を行っているのでしょうか。

管理職研修会において、学校・地域連携カリキュラムについての講義や演習を行っており、その中でファシリテーター役を何度も経験させスキルを向上させている。また、山口県教育庁の地域連携教育推進室が管理職や地域住民を対象にした研修会を開催したり、熟議サポート事業を実施したりして、熟議のノウハウ等を提供している。さらに、県立学校や市町教育委員会に、コミュニティ・スクールの取組に対する指導・支援等を行う地域連携教育エキスパート（学識経験者）を派遣し、熟議や学校運営協議会の進め方について助言・支援を行っている。

③さらに、この取り組みを全県に広げるにあたって、コーディネートの面でどのような課題があるとお考えでしょうか。

地域課題や学校課題の解決につながるテーマが設定されていない等、熟議が有効に機能していないケースがある。また、バランスよく様々な立場の方々に熟議に参加していただきたいが、日時の設定と人選に苦慮している。もっと多くの方に熟議に気軽に参加していただけるよう熟議の意義や進め方等について広くアナウンスする必要がある。